

プレーストーミング、親和図法によるアイデアの紹介



「十勝の魅力を発掘する ～また来たい十勝に向けて」を提案

～慶應義塾大学SDM アグリゼミ十勝視察（編集部）



前野教授・林特任教授とともに報告会に向けた準備の様子



慶應SDM委員長・前野隆司教授

**十勝を代表する
食品会社などを視察**



科学技術領域、社会領域、人間領域を問わず、広く「システム」という共通の視座から問題解決に取り組む手法を学ぶ独立大学院である、慶應義塾大学大学院システムデザイン

ン・マネジメント研究科（以下、慶應SDM）では8月26～29日までの4日間、「観光や交流」をテーマに十勝管内を視察した。

視察者は慶應SDM委員長・前野隆司教授、林美香子特任教授と研究員2人、学生5人。視察先は1日目に鎌田きのこ、ビストロコムニ、柳月、満寿屋パンを訪問。2日目は八千代牧場、いただきますカンパニー、紫竹ガーデン、カウベルハウスでの若手農業者との交流会。3日目は十勝千年の森、北の屋台などで代表者から直接説明を受けていた。

鎌田きのこについては、親和社は香川県の通販会社がだし原料「鮭節」を求めて1998年に北海道に進出、09年からマッシュルームの事業を開始したこと。「とかちマッシュ」を商品化し、しょう油だしの原料にするために生産開始したところ、偶然マッシュルーム製造の好条件が揃ったこと。麦わらの馬ふん肥料、札内川の伏流水を利用することで品質の良いものを商品化できたことを報告。

満寿屋パンでは、十勝産100%へのこだわり、麦音（パン屋）の店舗に隣接した小麦畑があり、単独ベーカリーとして日本一の面積（8000㎡）であること。産直市場の



紫竹ガーデン



25年前からガーデン造りを開始した紫竹昭葉さん



鎌田きこの視察



満寿屋パン



鎌田きこの



レストラン「カウベルハウス」で農業本気塾の農業生産者と交流

東京ドーム210倍の広大な草地で、畜産業からの事業展開として、農家から委託された家畜を育成管理するなか、レストラン「カウベルハウス」を経営。帯広市畜産物加工研修センターでは、ハム・ソーセージの製造を体験した。食育として市内の小学生中心に体験教室が開催されていることなどを調査した。

いただきますカンパニーは、畑と食卓を結ぶ畑ツアアとして畑ガイドによる説明、ジャガイモ掘り体験、農業機械の説明、畑の中の食事が特徴的。2000人の来店があること、地元の人向けであることを紹介。

紫竹ガーデンでは、「十勝の花を自由に咲かせてあげたい」という紫竹昭葉さんが25年前に63歳で牧草地を購入しガーデンづくりが開始され

設置、オール北海道のピザ作り体験、若手農家との連携で「麦感祭」、ベーカリーキャンプなどを開催。2030年には「十勝がパン王国になる」など壮大なビジョンを掲げる、との説明を受けた。

八千代牧場では、

また、2012年にイギリスのガーデンデザイナー協会が主催するグランド・アワード（大賞）とインターナショナル・アワード（国際賞）を受賞した十勝千年の森では林克彦代表取締役社長が、その運営や道内7カ所のガーデンと連携する「北海道ガーデン街道」の展開などを説明。50種類、500株が導入されているローズガーデンなどを視察した。

最後の視察は、北の屋台。北の起業広場協同組合の久保裕史氏から事業の考え方や屋台営業のルール、北海道の屋台運営の上での条件的な厳しさなどについて、ユーモアあふれる説明を受けた。

**視察報告を
スキッド(寸劇)で発表**





十勝千年の森 林克彦代表と記念撮影



十勝千年の森のメドウガーデン (野の花の庭)



視察報告会はワークショップの後、スキット(寸劇)で表現された



林代表が力を入れている「北海道ガーデン街道」



夕食は北の屋台 ワークショップのアイデアも見つかったようだ

帯広市役所や旅行会社の方々も報告会に訪れた



れ、それぞれをニックネームで呼びながら行われたワークショップでは、前野教授がまず「ブレイクストーリーミングの鉄則」を講義。「ポジティブ原則、質より量、他人のアイデアに乗っかる」と解説。次に数多く出されたアイデアを、情報整理法であるKJ法^{※1}に由来する親和図法^{※2}によってグループ化し、テーマに沿った問題を浮かび上がらせた。

報告会は、それぞれのチームがスキット(寸劇)を演じて、テーマに対する提案を行うという手法だった。「寸劇ではエンターテインメントは求めません。子どもたちの発表会程度の演技で十分。スキットの目的の第1は、演じることで自分自身とグループの気づきにつながることで、第2は見ている人に自分たちが作り上げたストーリーやアイデアを伝えること、にあるのです」と前野教授の講義は続く。

スキットの一つを紹介すると、「東京在住の女性2人で十勝旅行に来て、北の屋台に食事に訪れた。そして屋台で知り合った男性から『麦感祭』に誘われる。祭り会場でパーティーを楽しみながら農家と知り合い、新聞社主催の花火大会を楽しんだ。たぐさんの思い出を持って東京に戻ったが、知り合った男性と連絡

を取り合う仲になる。10年後、再び十勝を訪れた女性を待っていたのが北の屋台で夫婦で働くかつての友人だった」という寸劇を通して、出会いのある十勝、幸せになれる十勝旅行をアピールした。その他に帯広空港を「幸福空港」というネーミングにしては、という斬新なアイデアも寸劇に盛り込まれるなど、さまざまな提案が出されていた。

「観光と交流」をテーマに行われた視察結果を盛り込みながら、具体的なストーリーにしながら紹介する慶應義塾大学SDMアグリゼミの視察報告。その寸劇を楽しみ、拍手を送る航空会社、旅行代理業者、帯広市役所関係者からも、「とてもいいアイデアを提案していただきました。今後の業務に生かしていきたい」と感想が述べられ、報告会場は笑顔と拍手で閉じた。

※1 KJ法…無秩序で雑然とした定性データ(事実、意見、アイデア)群を、一度カードや付箋(ふせ)紙などに分解し、これを人間の直観力を用いて図解・文章に統合することで、意味や構造を読み取り、まとめていく方法および思想の体系。

※2 親和図法…バラバラの情報やアイデア、漠然としてはっきりしない問題を、言葉の意味合いの親和性によってグループ化・図式化することにより、問題の所在や本質を明らかにすることができる。